

文化・芸術



「オーバーニュー風景」

1931年、メソチント・紙
13・5センチ×27・8センチ

長谷川潔

(1891~1980年)

大川美術館企画展
「没後70年記念 茂田井武「ton
paris」とパリの画家たち」から

長谷川潔は、1918年に憧れの地パリに渡り、画業を通してフランスの美術界で活躍した版画家です。パリでさまざまな版画技法を修得した長谷川は、特に19世紀の写真の出現によって衰退していた銅版画技法「メソチント」を研究し、近代的な表現を織り交ぜながら、より芸術性の高いものとしてよみがえらせました。

渡仏後、西洋建築の幾何学的な造形の美しさ、その自然との調和に魅了された長谷川は、豊かな自然に恵まれた南フランスの村落を繰り返し描きました。31年作の本作においても、南仏オーバーニューに取材し、山脈に抱かれた教会のある町の風景を、長谷川の代名詞となったメソチントの深みと温かみのあつまるマチエール、緊密な構図によって表現しています。(佐藤)

※お知らせ：31日午後1時半〜同3時、上島史子氏(安曇野ちひろ美術館副館長)の講演会「茂田井武 欧州放浪の旅」を開催します。

名画の扉